

平成25年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

平成26年11月

はじめに

下呂市では、下呂市第一次総合計画の教育分野において、豊かな市民社会を実現するため、「人が育ち・行動する“まち”をめざして」の基本方針のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正（平成20年4月1日施行）され、各教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することとされました。

下呂市教育委員会では毎年、「学校教育」、「社会教育」の各分野における方針と重点を定め、各種施策に取り組んでいるところです。

これらの各項目についての内部評価を行い、外部からは、各課が所管する諸団体のご意見を頂き、これを外部評価とさせていただきました。

平成26年11月

下呂市教育委員会

平成25年度「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

(1) 下呂市小・中学校教育指導の方針と重点についての内部評価

(方 針)

- ◇ 児童生徒の個性を生かし、一人一人に「生きる力」をはぐくむ教育を推進する
- ◇ 学校の教育目標の具現に徹し、地域に信頼される学校経営を推進する

《魅力ある学校づくりのための設定指標》

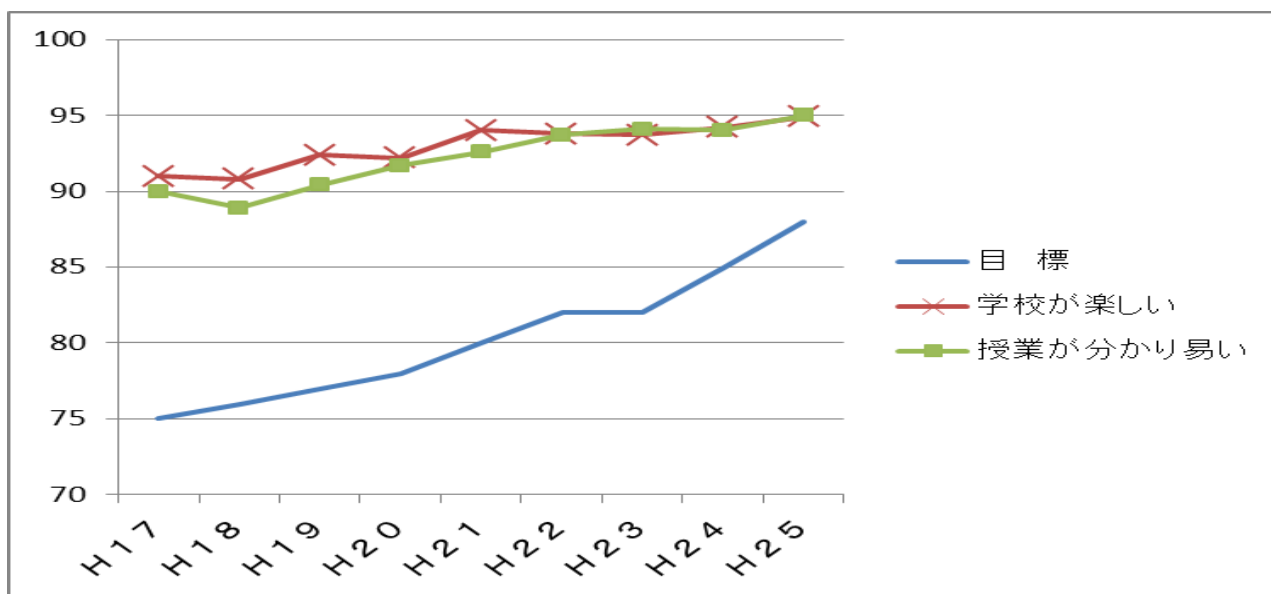
- ◇ 「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を88%以上にする。(前年度85%)
 - ◇ 「授業の内容が分かり易いと答える児童生徒の割合」を88%以上にする。(前年度85%)
- ※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」等と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援を充実させる。

【指標】 学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
目 標	75.0	76.0	77.0	78.0	80.0	82.0	82.0	85.0	88.0
実 績	91.0	90.8	92.4	92.2	94.0	93.8	93.7	94.2	94.9

【指標】 授業の内容が「分かり易い」と答える児童生徒の割合

区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
目 標	75.0	76.0	77.0	78.0	80.0	82.0	82.0	85.0	88.0
実 績	90.0	88.9	90.4	91.7	92.6	93.7	94.1	94.0	95.0



(総 評)

各学校においては、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、家庭・地域と一体となって学校経営に取り組んだ。管理職の指導のもと、児童生徒の個性を生かし、「確かな学力」、「豊かな心」、「健康な身体」を育む、調和のとれた教育の充実を図れるよう、学校を支援した。

市教委と学校との連携による学校教育の推進 ・ 市教委訪問における指導助言 ・ 財政支援

上記の指標実績のとおり、年々満足群が増加してきており、9割以上の児童生徒が学校生活に満足感、授業への充実感を得ているととらえる。また、不登校児童生徒の状況も、出現率は県や全国と比較すると少なく、各学校において豊かな学校教育活動が展開されているものととらえる。

(1000人あたりの不登校児童生徒数)

	小 学 校				中 学 校			
	全国	岐阜県	下呂市	(人数)	全国	岐阜県	下呂市	(人数)
平成16年度	3.2	3.7	3.5	8	27.3	27.5	10.3	12
平成17年度	3.2	3.6	3.1	7	27.5	28.1	14.1	16
平成18年度	3.3	3.9	0.9	2	28.6	29.8	16.0	18
平成19年度	3.4	3.9	1.5	3	29.1	32.9	19.6	23
平成20年度	3.2	4.1	1.0	2	28.9	33.9	23.6	27
平成21年度	3.2	4.2	1.5	3	27.7	29.7	14.5	16
平成22年度	3.2	4.0	1.1	2	27.3	27.7	10.3	11
平成23年度	3.3	4.2	0.6	1	26.4	27.1	12.2	13
平成24年度	3.1	4.1	1.7	3	25.6	27.1	18.3	19
平成25年度	3.6	4.7	1.2	2	26.9	29.0	18.8	18

(全国は、国公私データの。岐阜県は公立学校のみデータの)

今後さらに、「学校が楽しい」「授業の内容が分かり易い」と答えていない、約1割の児童生徒に焦点をあて、気にかけて指導や支援の充実を図っていききたい。また、市制施行10年間には、各種研究指定を受け多くの成果を残している学校、各種研究部会、教育研究所嘱託研究委員会がある。これらの貴重な成果をぜひ市内全小中学校で共有し(下呂市は一つ)、指導改善に努め、市内全小中学校が「学校へ来るのが楽しい」といえる魅力ある学校づくり(いじめ・不登校や問題行動に対する未然防止)、「授業の内容が分かり易い」といえるよう一人一人に確かな学力を育成する指導の充実、「危機管理対応マニュアル」等を整備し、安全・安心な学校づくり、特別支援教育の校内体制を一層充実させ、自立し社会参加できる力を身につけさせる支援、を進めることが大切であると考え。

【参考：過去10年間の研究指定】

- ・外国語活動(竹原小・竹原中)
- ・食育(湯屋小、小坂小、小坂中)
- ・幼児教育、保小連携(馬瀬小)
- ・魅力ある学校づくり(萩原小、萩原南中)
- ・人権教育(下呂小)
- ・理科教育(東第一小)
- ・居場所と絆づくり(不登校未然防止)(金山中)

☆確かな学力をつけるための教科指導のあり方(下呂市教育研究所嘱託研究委員会)

◇「確かな学力」の定着を図る指導の充実

○教科指導においては、特に、授業の終末に視点をあて、1時間1時間のねらい(本時何がわかり何ができるようになればよいのか)を明確にすること、そして毎時間個々の確実な評価を実施し、基礎的基本的な知識・技能を確実に習得させることに心がけた。加えて「わかった」「できた」という自らの高まり、学ぶ喜びを実感できるよう授業改善に取り組んだ。また、算数・数学、英語を中心に少人数指導の充実を図り、個の学習状況に応じたきめ細かな指導を行った。

- ・県の加配等(常勤・非常勤)を配置し少人数指導を実施し、一人一人に応じた指導を行っている。また、教務主任や教頭等が授業に入り、学校独自の努力で一人一人に応じたきめ細かな指導を行っている。
- ・少人数指導加配配置校：萩原小、下呂小、竹原小、萩原南中、小坂中、下呂中、竹原中、金山中(少人数指導常勤講師：7名 少人数指導非常勤講師：4名)
- ・複式学級における教科担任や中学校の免許外指導解消のため、県費非常勤講師を配置し授業の充実に努めている。(小学校教科担任4名、中学校免許外指導解消5名)
- ・授業の終末において、評価問題や補充問題を活用し、確かな学力の定着に努めている。

- ・パソコンや具体物を活用した授業、終末から指導過程を工夫する授業等を交流し、授業研究に努めている。
- ・下呂市嘱託研究委員会では、授業の中での指導のポイントや具体的な手立てを示したリーフレット「確かな学力をつけるための授業をめざして」を作成し、市内の全教員に配布し活用していただいている。
- ・全国学力・学習状況調査、岐阜県学習状況調査やC R T調査をもとに、各校において指導の成果と課題を分析し、授業改善に生かしている。

○発達段階に応じた「聞く・話す・書く・読む」を中心とした学習の基本的な学び方づくりに力を入れ学ぶ意欲の高い学習集団の育成に努めた。

- ・市内全小中学校が学習の基本的な学び方づくりに取り組み、基本的な学習姿勢が定着している。5つの地域毎に小中学校が連携をして、発達段階に応じた「話し方、聞き方」「家庭学習の取り組み方」等の学び方の段階を明確にし、学習姿勢の定着を図っている。小中学校が連携をして取り組んでいることで、小学校卒業時や中学校卒業時の児童生徒の姿が明確になり、義務教育9年間を見通した学習習慣づくりが行われている。

○進路指導においては、計画的に体験活動を位置づけ、望ましい勤労観や職業観が身につくよう指導を工夫している。特に、中学校の職場体験学習では、一人一事業所において体験することにより、自己の能力・適性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択できるよう指導・援助した。

- ・全中学校において、職場体験学習を実施した。二日から三日間、主に中学2年生、約280名が、のべ240ヶ所を超える事業所でお世話になった。自分が住む地域の職場で実際に勤労体験をすることは、働くことの値打ちや喜びを実感するとともに、地域の方々との触れ合いや郷土の良さを知る絶好の機会となっている。望ましい勤労観や職業観が身につくよう地域の事業所の協力をいただきながら、体験活動を行っている。

○特別支援教育においては、全教職員が一人一人の児童生徒の教育的ニーズを正しく理解し、校内委員会の充実を図り、全校体制で指導するように努めた。また、学業支援員（特別支援教育）の配置により、特別な支援を要する児童生徒を担当する教員の指導に対して支援を図った。また、一人一人の指導の方向性を示し、卒業時に付けたい力や卒業後の進路を見通した「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の充実に努めた。

- ・学校においては、特に保護者と担任とが密接に連携をとり、児童生徒の実態に応じて学習支援や生活支援を行っている。また、関係機関と連携したり客観テストを活用したりして本人の特性、理解度等に応じた指導を、全校体制で行っている。
- ・児童生徒の困り感に応じた、個別の指導を行っている。
特別支援学級(知的学級、自閉情緒学級)：9小学校16学級、6中学校9学級
言語通級指導教室：2小学校2学級
LD/ADHD等通級指導教室：4小学校4学級(H25に新設1学級)、1中学校1学級
- ・学業支援員を配置し集団の中で個別の指導を必要とする児童生徒に対応をしている。
特別支援教育担当学業支援員20名・不登校対策担当学業支援員7名配置。
(不登校対策7名の内1名は、下呂市適応支援教室「フリースペースふらっと」教育相談員1名)

◇ 豊かな心と健康な体の育成

○道徳教育においては、心に響く道徳の時間の一層の充実を図るとともに、地域や学校の特色を生かした豊かな体験活動を通して、児童生徒の道徳性を高めるよう努めた。

- ・週35時間の道徳の時間を要とし、日常生活や行事などと関連づけながら全教育活動を通して、道徳教育を推進している。特に「自己を見つめる力」「他を思いやる心」「郷土を愛する心」の育成を重点にして、児童生徒の心に響く道徳授業の実現に努めている。
- ・飛騨教育事務所の道徳教育計画訪問を機会に、それぞれ中学校区で子どもたちの実態を交流し合いながら、学校間の授業公開を行い、道徳の時間の充実に努めた。（平成25年度道徳教育計画訪問実施校：萩原小、萩原北中、小坂中、上原小、竹原小、東第一小、金山中）
- ・各教科と道徳の授業の関連を明確にした道徳教育の全体計画別葉の作成を行った。

○特別活動においては、諸問題を解決する活動を通して、児童生徒による自発的、自治的な活動を展開し、一人一人の児童生徒が自分に自信をもち、自分の良さや可能性を発揮してよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることをねらいとしている。集団の一員としての自覚を深めることにより、一人一人に存在感があり、心が通い合う学級づくりに努めた。

- ・学級を集団生活の母体とし、学校生活の向上や望ましい集団生活の構築のために、学級活動の充実を図った。また、児童会・生徒会活動による挨拶運動、清掃活動等自治的活動を展開し、学校生活の向上をめざした。
- ・上記実践の積み重ねの中で、どの子にも感じてほしい「学校に来るのが楽しい」という居心地の良さや所属感を観点にした評価に努めた。このことが不登校やいじめの未然防止につながると考える。

○健康教育においては、児童生徒の健康状況を的確に把握するように努め、自主的に健康管理できる能力や態度が育つよう、指導の工夫改善を図った。平成21年度に文部科学省指定を受けた小坂地域における食育推進事業においては、栄養教諭を中核として、学校・家庭・地域が連携した食育の充実について研究を深めた。その成果を継続的に下呂市の各小中学校に広めている。

また、近年大きな課題となっている、食物アレルギーに対する対応についても、管理職、養護教諭を中心に研修に努め、全教職員の共通理解を促した。

- ・各学校においては、毎朝、児童生徒の健康観察を実施している。また、保護者との連携を密にし、児童生徒の的確な健康状態の把握に努めている。
- ・昨今増加してきているアナフィラキシーショック等についての対応について、職員研修も進めた。市校長会、教頭会での周知。「食物アレルギーによるアナフィラキシーへの対応」保健安全講習会に全保健主事、養護教諭参加。学校教育課にてエビペントレーナー及び研修資料を準備し、各校の研修に貸し出し（全小中学校で研修会をもっていただくよう依頼）
- ・県教委の指導により、「避難訓練」を「命を守る訓練」とし、今までの固定された1単位時間に実施する避難訓練から、いつでも、どこでも、「自分の命は自分で守る」力を育成するための、訓練へと変更した。具体的な方途として数分でも実施できる訓練の導入（シェイクアウト訓練等）その他安全や危機管理意識の向上を目指し、学級活動・全校集会・交通安全教室などの学校行事を通して具体的な指導を行った。

○いじめ、不登校、その他の問題行動に対する対応

下呂市教育委員会は、次のような基本姿勢をもって指導助言にあたっている。

※「**子どもは間違い(失敗)を犯しながら成長していく存在である。**」

※「問題があることが問題ではなく、どう対応(関わる)するかが問題である。」

※ 存在感、自己有能感、自己有用感、→ 自己肯定感を高めることを大切にする。

※「見えている事象(サイン)が見えない者は、見づらいいじめ等の事象をキャッチすることはむずかしい。」日々の全ての教育活動で『気にかける(まなざし、声かけ、ふれあい)指導』を大切にする！

※ 保護者、地域との理解と協力 (情報共有)

管理職のリーダーシップのもと、教職員が上記基本姿勢を大切に信頼と愛情に基づく適切な対応ができるよう、生徒指導主事・教育相談主任等を中心とした組織的な生徒指導・教育相談の充実を図った。特に、いじめ、不登校、問題行動対応については、全職員が共通理解のもとに組織的に対応し、未然防止・早期指導の徹底に努めた。また、教育相談員の配置により、不登校・不登校傾向の児童生徒への個別的な支援に努めた。

【いじめの実態】

- ・いじめの未然防止→お互いを思いやり、仲間を大切にする指導の充実といじめは人として絶対許されないという意識の高揚を図っている。(仲間と力を合わせやり遂げる活動の重視等)
- ・心理検査や生活アンケート、精神健康度調査等を実施し早期発見・早期対応に努めている。
- ・教育委員会は、各学校より随時、また毎月事案の報告を受け、早期対応の指導助言に努めている。報告書には、「解決済み」「継続観察中」の項目を追加し、引き続き児童生徒の指導にあたっている。
- ・スクール相談員、スクールカウンセラー等の専門家との連携により心のケアに努めている。

【下呂市小中学校のいじめの認知件数】

◇22年度：15件 23年度：24件 24年度：30件 25年度：18件

【22年度1000人あたりの認知件数】 全国： 5.5人 岐阜県：15.2人 下呂市： 5.1人

【23年度1000人あたりの認知件数】 全国： 5.0人 岐阜県：12.2人 下呂市： 8.3人

【24年度1000人あたりの認知件数】 全国：14.3人 岐阜県：15.3人 下呂市：10.7人

【25年度1000人あたりの認知件数】 全国：13.4人 岐阜県：12.9人 下呂市： 6.8人

- ・H25年度には、いじめ防止対策推進法(平成25年法律第71号)に基づき、全小中学校において、「いじめ防止基本方針」策定し、いじめ未然防止対策委員会を設置している。いじめの未然防止、早期発見、早期対応の取り組み、問題発生時の対応について共通理解し組織的に取り組んでいる。

【不登校の実態】

- ・各小中学校においては、「新たな不登校を生み出さない」として一人一人が集団の中で良さや弱さを認め合い、安心して生活できる居心地のよい学校づくりに努めている。その成果もあり、市内の不登校児童生徒（病気以外で年間30日以上欠席）は、全国、県と比較して少ない。特に、中学校での出現率は非常に少ない。
- ・学業支援員（不登校対策・教育相談）を、小中合わせて7名配置（事務局に1人）している。

（再掲）

（1000人あたりの不登校児童生徒数）

	小 学 校				中 学 校			
	全国	岐阜県	下呂市	（人数）	全国	岐阜県	下呂市	（人数）
平成16年度	3.2	3.7	3.5	8	27.3	27.5	10.3	12
平成17年度	3.2	3.6	3.1	7	27.5	28.1	14.1	16
平成18年度	3.3	3.9	0.9	2	28.6	29.8	16.0	18
平成19年度	3.4	3.9	1.5	3	29.1	32.9	19.6	23
平成20年度	3.2	4.1	1.0	2	28.9	33.9	23.6	27
平成21年度	3.2	4.2	1.5	3	27.7	29.7	14.5	16
平成22年度	3.2	4.0	1.1	2	27.3	27.7	10.3	11
平成23年度	3.3	4.2	0.6	1	26.4	27.1	12.2	13
平成24年度	3.1	4.1	1.7	3	25.6	27.1	18.3	19
平成25年度	3.6	4.7	1.2	2	26.9	29.0	18.8	18

（全国は、国公私データの。岐阜県は公立学校のみデータの）

◇ 特色ある教育活動の推進

- 小中学校にALT6名を配置し、ALTとの連携による英語学習や平成23年度より導入された小学校5・6年生における外国語活動において、外国語への関心・意欲やコミュニケーション能力の向上を図った。また、小学校では、1～4年生においてもALTを活用して英語のコミュニケーション活動を実施している。
- コンピュータの積極的な活用を推進し、情報を主体的に選択・活用できる能力を養うとともに、情報モラルの向上に努めた。

- ・各学校において情報教育の年間計画に沿って児童生徒への指導に取り組んでいる。また、近年課題となっている「インターネット、メール・SNS等の活用」について、被害者のみならず加害者となる危険性から児童生徒を守るべく、児童生徒はもちろん保護者に対しても啓発活動（研修）を行った。
- ・研修に関しては、学校教育課はもちろん外部機関の協力もいただき、講師派遣依頼に対応した。
 ＜H25年度情報モラル講座＞
 ※学校教育課より講師派遣：6小中学校児童生徒対象、9小中学校保護者対象
 ※外部機関より講師派遣：全7中学校生徒対象
 ※その他、各小中学校にて指導

- 図書整理員の配置により日常的な図書館利用を推進し、読書に親しむ機会を増やすとともに、読書や読み聞かせ等の活動を積極的に行った。

- ・平成25年度は5名の図書整理員を配置した。
- ・飛騨地区学校図書館教育推進事業を積極的に活用し(毎年順に実践校を指定)、学校図書館の整備と活用を促進している。平成25年度は萩原小学校、上原小学校が優秀賞を受賞した。
- ・ボランティアによる読み聞かせ活動が各学校において活発に行われている。

○森林教室等、環境保全について主体的に考える体験的な活動を支援し、環境問題の意識化を図った。

- ・小学校では、外部の講師を招き森林教室を行った。また、位山自然の家において宿泊し、森林体験学習を行い、森林の保全や自然を大切にする心を育てる学習を行った。
- 森林教室 小学校5校6学級が実施 位山自然の家での体験学習 小学校11校が実施

◇ 地域に信頼される学校づくり

○管理職は、その指導性を発揮し、自己啓発面談等を通して全職員の目的意識を高めるとともに、学校や地域の特色を生かした創意ある教育活動の推進に努めた。

- ・現在、各学校は年間3回程度の校長と職員の面談機会をもち、教科指導や生活指導における諸問題や個々の対処について、具体的な目標や指導の手立てを明らかにし指導をしている。
- ・各学校とも、児童・保護者や地域の方からのアンケート等(学校評価)を実施し、学校評議員の方からもご意見をいただきながら、教育指導や教育実践について改善を図っている。
- ・学校行事や学年行事等において、地域の特色を生かした教育を実践し、郷土に誇りと愛着を持つ心を培っている。

○下呂市教育研究所による研修事業を工夫し、教職員の指導力を高める支援を図った。

- ・教科指導関係、情報教育関係、法令関係、特別支援教育関係など教職員のニーズを考慮し、例年数講座を設定して、研修を深めている。

平成25年度	夏季の実践講座	10講座開設(+1)	339名参加(+45)
	秋・冬季の実践講座	7講座開設(-1)	118名参加(+2)
			()は、前年度比

○児童生徒の安全を第一に考え、危機管理マニュアルや気象警報等発表時の対応について見直しを行った。

- ・登校時を想定した訓練を計画し、下呂市防災訓練へ参加した。
- ・災害時に備え、児童生徒の保護者への受け渡し訓練を行った。
- ・気象警報発表時の対応について確認した。「早い段階で判断する」「児童生徒のみでは下校させない」「定期的に受け渡し等の訓練を実施する」を基本とし、児童生徒の安全を第一に考えた対応がとれるようにした。
- ・気象警報発表時マニュアルに、登校中の警報発令に対する対応について追加した。

○下呂市スクールサポーター事業の継続・強化を図り、学校内外における不審者等に対する児童生徒の安全確保に努め、危機管理体制の充実を図った。

- ・警察出身のスクールガードリーダー２名をお願いし、支部ごとに校長会代表者に年間２回ほど集まっていたき、情報交換やリーダーからの助言を受け、各学校へ伝達して児童生徒の安全に寄与している。
- ・各支部では、警察官やスクールガードリーダーの講演などを計画し、スクールサポーターの活動を推進している。
- ・スクールサポーターを募集し、児童生徒の登下校等に関する見守り活動をお願いしている。

○下呂市教育研究所ホームページの充実を図り、各学校の教育方針や活動について情報発信するとともに、自己評価や学校関係者評価（外部評価）等を学校経営の改善に生かし、開かれた学校づくりを推進した。

- ・下呂市教育研究所ホームページには、各学校の活動について学校だよりや写真を掲載して情報発信を継続して行ってきた。情報内容も年々充実し、年間のアクセスは、約１０万件に達した。
- ・各学校では、児童生徒、教職員、保護者、学校評議員等へのアンケート調査により教育活動について定期的に評価し、成果・課題を明確にして学校経営に生かしている。また、評価結果については、保護者や地域に公開し、開かれた学校経営を進めている。

○体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について

下呂市教育委員会としては、問題行動等が起きたときには十分な教育的配慮のもと、毅然とした対応はとりつつも、「体罰」は決して許されないことであり、決してあってはならないことであるととらえている。体罰では、児童生徒の正常な倫理観を養うことはできない。むしろ、力による問題解決への志向を助長させ、強いてはいじめや暴力行為等を是認させる土壌を生む恐れもある。体罰は指導や教育ではなく暴力行為であり、いかなる場面においても許されるものではないことを各学校に指導している。

全教職員に研修資料「不祥事根絶のために～師であることを胸に刻んで～」 「体罰を根絶する学校」(H24年度配布)を活用し、各学校において職員研修を実施した。また、職員一人一人が体罰を含む不祥事根絶に向けて、「チェックシート」(県教委作成)により自己点検、各校の重点課題を確認しあい、不祥事根絶に向かって取り組んでいる。平成２４年度は、３件の報告が市教委にあった。平成２５年度は、４件の報告があった。(いずれも管理職からの注意指導。その後の児童生徒との関係は良好である。)

(①授業中ふざけていて集まりが悪い→胸を手で押す。②部活中、反抗的な言葉→手のひらで頭をたたく(社会人コーチ)。③教師に嘘→手の甲で胸を突く。④授業中居眠り→頭をコツン)

また、体罰のみならず部活動における指導のあり方について、「下呂市中学校部活動ガイドライン」を平成２５年度中に作成し、平成２６年度４月より各中学校に配布し、指導の徹底を図っている。

(２) 教育環境の整備と充実

○育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

- ・平成２５年度 小学生９９名、中学生８０名（うち要保護 ０名）

○改築、修繕関係

- ① 竹原小学校の屋内運動場改築工事を実施した。
- ② 萩原小学校屋内運動場改築工事を実施した。
- ③ 下原小学校校舎耐震補強工事を実施した。
- ④ 宮田小学校屋内運動場耐震補強工事を実施した。
- ⑤ 下呂小学校屋内運動場改築に伴い、倉庫改築・外構工事等を実施した。
- ⑥ 東第一小学校校舎・屋内運動場改築工事を実施した。
- ⑦ 各小中学校の施設維持修繕に関して、優先度を考慮しながら修繕対応を進めた。

(3) 【各学校における学校関係者評価委員会の意見（平成25年度抜粋）】

① 学校運営について

- 当たり前のことが当たり前にできていることがうれしいし、たくましく、元気に、素直に成長していることがうれしい。保護者として通わせたい学校です。
- 「学校が楽しい」「学習が分かる」と答えている子が、年々多くなり高い評価をしていることが素晴らしい。
- 毎日の授業、次々とやってくる行事などに多忙な中で、先生方が手を抜くことなく本当によくやってくださっている。
- ※先生方の多忙化が問題となっている。スリム化できることはスリム化して、先生方がゆとりを持って教育にあたれるとよい。

② 学習指導について

- 小学校低学年でも「・・・です。わけは・・・」のように、しっかり話せることが素晴らしいと感じた。
- 先生方が、子どもの意見を引き出そうとされていることがよくわかった。子どもが発表したことを先生や仲間が認めてくれることは、子どもたちの安心感につながっていると感じた。
- どの子も落ち着いていて、集中して授業に取り組むことができている。
- 多くの参観者の前で、どの子も先生を頼らず、堂々と臆することなく話せていた。先生方の指導力に感謝している。
- 教具や学習プリント等の準備に細かい配慮があり、課題に迫るための工夫があった。
- どの授業でも課題が板書に位置付けられ、子どもたちがやることを分かって取り組んでいた。
- 学年が上に進むにつれて、落ち着いてじっくり考えた深い学びができている。
- 特別支援学級の児童生徒や、特別の支援を必要とする児童生徒に対して、きめ細かな指導がしっかりなされている。
- ※グループでの話し合いでは、活発な意見が出されているが、話し合いが練り合いまでにはいたっていない。意図的な指導がさらに必要ではないか。

③ 生活指導について

- あいさつを本当によくしてくれる。あいさつによって地域の軽犯罪も減る。こういう環境を今後も大切にしていきたい。
- 「6年生を送る会」を少し見させてもらい、感動する会であった。子ども一人ひとりが主役となることができる学校であり、子ども達は幸せである。
- 教室が居心地のよい空間となっていて、安心して生活できる様子が伝わってきた。
- ※ネット社会への対応を、大人がきちんと子どもに教えていかなければならない。
- ※挨拶はできているが、目を合わせられない子がいる。自己表出する力は、義務教育9年間で大切に育てていきたい。

④ 家庭・地域等との連携

- 横断歩道の渡り方は、マナーを守って大変礼儀正しい。止まってくれた車に対して、丁寧にお辞儀をしてお礼を言うことができる上級生の姿を、下級生たちが学んでいっている。
- 登下校など、地域の方々に見守っていただき感謝している。

平成 25 年度「社会教育の方針と重点」についての点検・評価

(方 針)

- ◇『豊かな市民生活をめざす社会教育の推進』を目標として、その具現化のため、以下の4つの重点を柱として事業を推進した。

(重 点)

- ◇ 地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育 む】
- ◇ 市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】
- ◇ 市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学 ぶ】
- ◇ だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】

(力 点)

社会教育は、学校教育の教育課程として行われる教育活動を除く、青少年・成人に対する生涯学習活動を積極的に支援する責務があります。社会教育課が所管する事業、施設は広範囲におよぶため、それらを有効に活用して市民のそれぞれのライフステージにおける役割を明確にして、事業の実施にあたらなければなりません。課員はこのことを自覚し、以下に述べるそれぞれの事業を実施しました。

◇地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育 む】

① 家庭教育機能の充実

- ・家庭教育における子育て支援として学習機会の充実を図るため、子育て講演会、乳幼児期・幼児期並びに小中学校保護者対象の親まなび講座、命のふれあい講座、を開催すると共に、家庭教育支援チームによる子育て支援を行った。

(親まなび講座)

- ・乳幼児・幼児期の家庭教育として、市内全域を対象に親まなび講座を実施。子育て世代どなたも参加できる環境で実施した。

△ 乳幼児健診時や保育園行事等に合わせて開催し、参加者を増やせないか。

(子育て講演会等の開催)

- ・子育て支援講演会は、毎年、家庭での子育ての不安や悩みを解消することにつながるような講演会を行っている。今年度は、食育への関心が高まっている事から、健康課と合同で食育に関する講演会を開催。弁当の日の取り組みから、人づくり・地域づくりとの関わり方などをご講義いただいた。

今後も「聞いてみたい」と思える講演会のための講師選択や、開催時間・開催場所等について工夫を重ねて行くと共に、関係機関と協力していきたい。

(家庭教育支援総合整備事業)

- ・児童少年期の家庭教育については、募集型ではなかなか参加者が集まらないため、保護者の集まる小中学校単位による講座実施に転換し、支援事業として継続して取り組む。

・命のふれあい講座事業

市内全中学3年生を対象に、自他の生命の大切さや親や家族のあり方や役割について学び、近い将来親になるであろう中学生に対し「家庭教育」の重要性を早く認識させることを目的に「命のふれあい講座」を実施した。

・家庭教育支援事業

子育て中の親や保護者の子育て不安の軽減や孤立を防ぐため、子育て経験者や専門家との連携により、きめ細かな相談体制の確立を図った。

金山地域では、3～4ヶ月、8～9ヶ月健診の際、保護者同士または保護者と支援チームの語り合いの場をつくるために、赤ちゃんカフェ・カナヤマンカフェを実施した。

「UP カフェ」を年8回実施すると共に、市内全域へのサービス拡充のため、新たに金山地域でも開催した。

広報活動として、金山地域は「カナヤマン」、小坂地域は「小太郎だより」を作成発行。小中学校・保育園を通して保護者に配布を行った。今後は市内全域へ広めたい。

・企業内家庭教育研修

飛騨教育事務所と協力して、市内の一般企業にて家庭教育研修を受ける事業を展開。親まなび講座などへの研修に出席できない家庭も多いことから、企業へ講師を派遣し教育支援を行った。

25年度は萩原・金山地域から2社の協力を得ることができた。今後も幅広く周知を行い多くの企業が参加できる体制作りを行う。

△ 父親の育児参加、経営者側の子育て支援への認識を深める効果は大きいですが、受け手の企業が少ない。市民にもっと情報を発信し、子育てについて理解を深めることを推進してほしい。

△ 大手企業の少ない下呂市においては、受入れ企業が限られる為、地域で推進することの検討。

② 地域活動の促進と地域社会における教育力の向上

(青少年教育)

- ・下呂市青少年育成市民会議を開催し、大会決議の採択、少年の主張の発表、青少年育成顕彰（わかあゆ賞）表彰式を行い、青少年の奉仕・体験活動・地域行事等への参加の機会づくりの充実を図った。

また、秋には青少年の国際的視野並びに国際感覚の醸成を目的とした、英語スピーチコンテストを実施した。

△ 資質、レベル向上の観点から中央につながる審査基準の採用を検討。

(青少年健全育成)

- ・ジュニアリーダーや指導者、学校教職員及び地域の関係諸団体と連携・協力して、各地域でのキャンプ体験活動、市内小中学生が野外活動のもとで、学年が違う仲間たちと共同生活や未体験活動を行う中で、忍耐力や自立心・協調性などの心の豊かさを身につけることを目的とした下呂市交流キャンプ、親子わくわく科学体験教室（夏季の部・冬季の部）を実施した。なお、天体観測は天候不良により中止となった。

△ 学校では学べない多くのことを学び、実践力と自信をつける場になっている。ジュニアリーダーになっている中高生の参加を促進するため、学校とも連携してほしい。ジュニアリーダーの活躍ぶりを大いに評価しPRしていただきたい。

- ・各地域において成人式を開催し、地域で青少年を見守り、健全に育てていこうとする気運を高めた。新成人360人が出席した。

△ 成人式について、現状通り地域性を重視し、式典は厳かな中で、その後「成人の集い」の二部形式で行われることが望ましいと思う。

- ・下呂市中学生国際交流事業として、アメリカ合衆国姉妹都市であるアラスカ州ケチカン市とフロリダ州ペンサコーラ市への中学生派遣を実施。また、相手側からの訪問団受入れ等の相互交流及び同地域からの国際交

流員2名の雇用を継続し、青少年の国際感覚の醸成を図った。

○第27回ケチカン市派遣事業

派遣先：アメリカ合衆国アラスカ州ケチカン市

派遣人員：中学年生8名 引率者2名

派遣時期：平成26年3月21日（金）～4月2日（水）

○第20回ペンサコーラ市派遣事業

派遣先：アメリカ合衆国フロリダ州ペンサコーラ市

派遣人員：中学年生20名 引率者3名

派遣時期：平成25年4月26日（金）～5月5日（日）

○第２１回ペンサコーラ市派遣事業

派遣先：アメリカ合衆国フロリダ州ペンサコーラ市

派遣人員：中学年生１７名 引率者３名

派遣時期：平成２６年３月２７日（木）～４月５日（土）

△ 参加が少数の生徒に限られるのは残念ですが、ホームステイの受け入れが派遣の条件となっており、家庭の事情等でそれがかなわない生徒のために、配慮をお願いしたいです。

・岐阜県青少年健全育成条例に基づき、市内の書店、コンビニエンスストア、カラオケ店、金物店を月に一度巡回して立入調査を行い、青少年の健全育成のため有害図書や深夜の入店、刃物の販売について状況を調べ、指導等を行った。

重複意見

△ 幼児期、少年期の中で、自分の意志をきちんと伝え、たくましく生きる、というようなプログラムの取り入れ。

△ 妊婦期からも健康課と連携し支援、学習していく体制づくり

△ ライフステージごとのニーズの把握とそれに対する、魅力ある事業展開

△ 学童期については、以前に比べ家庭教育学級（小中を対象に）より一層の充実を。

△ 青少年については、ジュニアリーダー活動とか成人式を機に充実を。

△ 30代・40代・50代と世代をもう少し区分しながら、仕掛けていく必要がある。

△ 60代から70代前半までの余暇活動・生産活動・ボランティアへ活動への誘い。

経験（社会的・生産的）もある層をいかに取り込むか大きな課題。

（その人自身の学習やその人たちにリーダー・指導者としての活動を期待）

◇市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】

① 文化・芸術活動の振興

- ・文化協会活動補助事業により文化・芸術関係団体の自主的な運営を促進し、市内各文化協会が一丸となり下呂市文化協会主催として下呂市文化祭を開催した。また、無形文化財及び無形民俗文化財の現地公開事業などにより地歌舞伎公演や第13回岐阜県獅子芝居公演への参加など、市民に優れた文化・芸術にふれる機会の提供や、発表の機会づくりなどの支援を行なった。

② 指定文化財の保存

- ・指定文化財(国、県、市指定文化財、合計503件：26年3月31日現在)を適切に保護し、普及・啓発を図るため、文化財保護巡視員の協力を得て、市内各所の文化財及び愛護標柱の異常の早期発見に努めることができた。

平成25年度は、愛護標柱10カ所の更新及び新規設置を行い、「重要無形民俗文化財」の伝承について現地公開に4件、「市指定文化財」の保存修理・維持に関し9件の補助を行った。

- ・近年、急速に失われつつある近代和風建築の保全状況の把握と、今後の保護措置のための学術的な基礎資料を作成することを目的として、県内全域で近代和風建築総合調査が開始された。下呂市内においても18棟の建造物を調査対象とし、郷土の文化財の掘り起しやふるさと教育、または文化財を中核とした町づくりにも活用されることを期待する。

③ 市内の遺跡や史跡を保護し、普及・啓発を図る

1) 埋蔵文化財の保護と新遺跡地図の作成事業

平成25年度は、埋蔵文化財包蔵地の照会が87件、文化財保護法第93条・94条による開発工事に先立つ届出・通知の結果、範囲確認調査を1件、立会調査を1件、立会調査指示を1件行った。

範囲確認調査は、岐阜県指定史跡諏訪城における石垣崩落防止工事に伴う調査である。調査の結果、城内から多門櫓の土台と推定される石罫が検出され、重要な遺構が城内に存在することを確認した。

また、昨年度に引き続き、新遺跡地図の作成事業を実施し、平成25年度は萩原地域を対象に現地踏査を実施した。合計56ヶ所の史跡・遺跡の範囲を点検した。

2) 記録保存のための発掘調査報告書作成作業

【桜洞城跡】平成21年度に本発掘調査を実施した桜洞城跡は、整理作業を経て、平成26年1月6日に発掘調査報告書を刊行した。150冊発行し、発掘調査成果の利活用を促進するため、市内図書館と博物館に配布し、また近隣市町村自治体及び文化施設に発送した。

【大林遺跡】個人住宅建設(下呂市小川)に先立ち、平成22年度に本発掘調査を行い、記録保存を実施した大林遺跡については、平成25年度に報告書原稿の執筆と印刷用原版編集(委託)を行い、平成26年度に発掘調査報告書を刊行する。

【諏訪城跡】平成22年度に諏訪神社参道付近にて露出する諏訪城跡の石垣が崩落する懸念が発生し、その保護のための対策が必要になっていた。史跡の保護すべき範囲を確定するために、平成24年度と平成25年度の2回の範囲確認調査を実施した。史跡に影響を及ぼすことのない工事内容で、平成25年3月に石垣崩落防止工事を完了した。範囲確認調査報告書を平成26年度に刊行する。

また、発掘調査報告書の成果は、博物館における企画展にて積極公開し、利活用を促進させたい。

△生涯学習講座として市内の史跡を見学という形で組み込めないか。

④ 博物館における歴史資料の保管体制の充実と、その公開を図る

1) 全体的な事項

平成24年3月23日に社会教育委員会から頂いた「提言書」について、特に是正が求められた点に「博物館等施設の使用料(入館料)の基準統一」がある。今もなお、旧町村時代の各館使用料を適用し料金徴収しているため、その点については是正が求められた。提言書を受けて後、課では引き続き是正の検討を行っている。

2) 下呂ふるさと歴史記念館の事業

【企画展事業】

平成 25 年度は 4 会期の企画展と、2 会期の収蔵資料展を実施した。

企画展：春季には、近世から近代の土木工事・街道・産業をテーマに、「飛騨川流域の今昔物語」と題して前期展と後期展の 2 会期を実施した。家族での来訪者が多い夏季には、夏休みの自由研究の参考題材として、埋蔵文化財をテーマとした「縄文の美と面白さ」と題した企画展を実施した。秋季には、NHK 大河ドラマに合わせて、市収蔵品と市民所蔵「明治維新期の飛騨に何が起こったのか」と題した企画展を実施した。いずれの企画展も、市収蔵資料の公開・活用事業の一旦として行ったものである。

(展示会実績一覧)

会期	種別	展示会名
25.3.22～4.21	企画展	飛騨川流域の今昔物語パート 1－土木工事編－
25.4.26～5.6	資料展	昔の土器と石器の作り方
25.5.11～6.2	企画展	飛騨川流域の今昔物語パート 2－街道と産業編－
25.7.20～9.1	企画展	縄文土器の美と面白さ
25.10.5～11.24	企画展	明治維新期の飛騨に何が起こったのか
25.12.14～3.16	資料展	中田満雄デッサン画展

【博物館講座】

博物館講座は、「下呂市の文化財の保護と利活用を推進するための、行政側からの周知と公開の機会の創出」と位置づけ、社会教育的要素を強調した講座である。そのため、生涯学習講座や公民館講座とは、目的を異にしている。

平成 25 年度は、3 回の博物館講座を実施した。リピーターが半数程度である他、初めて博物館講座に参加したという割合が 4 割近くあり、歴史に関心をもつ層の掘り起しに手ごたえを得ている。

(博物館講座実績一覧)

実施日	講師	テーマ・受講者人数	会場・時間
25.6.15(土)	岩田修 (飛騨地学研究会)	萩原の地形と断層 9 名	星雲会館 13:30～15:30
25.10.5(土)	岩田修 (飛騨地学研究会)	ふしぎな湯ヶ峰火山 17 名	下呂交流会館 13:30～15:30
25.10.26(土)	千早保之 (苗木遠山史料館)	梅村騒動とその後 42 名	竹原公民館 13:30～15:30

【製作体験】

下呂ふるさと歴史記念館では、「展示を楽しく、またより深く理解する」きっかけづくりとして、製作体験「縄文体験」を平成 23 年度から実施している。コースは、古代アクセサリー作り（500 円）、縄文土製品作り（650 円）、ミニチュア縄文土器作り（800 円）の 3 コースである。平成 25 年度から事業が委託化されたため、体験料を 250 円から 300 円程度値上げしたため、体験者数が前年比 3 割減になった。春休み・大型連休期間・夏休み期間中は、家族連れや女性グループで賑わい、埋蔵文化財をより深く理解するためのツールになっている。定例のアンケート調査では、「楽しみながら勉強できた」との感想も多い。体験学習は、博物館を「楽しい」イメージに変える重要な事業柱と位置づけており、平成 26 年度も引き続き実施している。

(体験学習実績)

- ・古代アクセサリー作り 396人
- ・縄文土製品作り 171人
- ・ミニチュア縄文土器作り 134人 合計701人

【広報】

館内事業の周知のため、次の媒体を利用して広報を実施した。博物館のアンケート調査によると、周知をした翌月には広告を見た来館者があり、来館者増に一定の効果がある。

- ・市政だよりげろ：4月・7月・9月・10月の各号→博物館新規事業を周知
- ・SARUBOBO：7月号・8月号→夏季休暇中の館内イベントを周知
- ・下呂市HP：市、観光双方で随時掲載し周知

【歴史記念館事業への評価（アンケート調査・・・別紙参照）】

下呂ふるさと歴史記念館では、事業評価の一環として、来館者アンケート調査を実施した。アンケートは、展示に関する評価5項目、体験学習に関する評価6項目を設定し、5段階で評価を受けた。常設展示に対しては、3.7～3.8pt、体験学習に対しては、4.4～4.8ptの評価を頂いた。前年のアンケート評価と比べ、ほぼ横ばいの評価であった。

【収蔵資料の収蔵環境改善事業】

本事業は、市収蔵品から新たな価値を見出す博物館の基礎作業である。成果は展示事業にて公開される。収蔵資料台帳に整備された資料の一部は、企画展で順次公開する予定である。

■収蔵資料台帳の作成

- ・萩原地域寄贈古文書（区有文書）の収蔵資料台帳の作成。平成25年度は中呂区有文書の台帳を作成した。

■寄贈・寄託の受入

受入日	種別	資料	点数	寄託者名（敬称略）
25.12.18	寄託	宮田水谷家文書	1,732点	水谷 章
25.12.26	寄贈	御厩野日下部家文書	3点	日下部順治

【下呂ふるさと歴史記念館入館者数の推移】

平成25年度に、平成23年度以降上昇傾向にあった入館者が初めて減少に転じた。付近で道路改良工事が実施され、当館へのルートが通行止めになったことが来館者数の減少の要因として大きかった。

年度（4月～3月）	入館者数	前年比（％）
平成23年度	15,961人	145.5%
平成24年度	18,321人	114.8%
平成25年度	14,445人	78.8%

【他館の入館者数の実績】

- ・小坂郷土館 343人
- ・金山郷土館 20人（依頼を受けて展示解説等を実施した人数）
- ・加藤素毛記念館 469人
- ・馬瀬歴史民俗資料館 8人（希望者のみ開館対応）

3) 博物館・郷土館・資料館等の教育利用と特別利用

【教育利用】

下呂ふるさと歴史記念館の教育目的利用実績は、加子母小学校6年生、下原小学校6年生、中原小学校3・4年生、尾崎小学校6年生、岐阜大学と国際交流事業ケチカン派遣交流事業の6件の団体見学が

あった。また、当市では初めて博物館学芸員資格取得のための実習生を愛知学院大学から受け入れた。

また、小坂郷土館、金山郷土館、加藤素毛記念館、馬瀬歴史民俗資料館については、現在の常設資料を引き続き展示公開している。学校利用数については、小坂郷土館はなし、金山郷土館は金山小学校6年生の1件、加藤素毛記念館は金山中学校、下原小学校6年生、金山小学校6年生、東第一小学校6年生の合計4件利用があった。小坂郷土館は例年湯屋小学校の利用があったが、同校が閉校になったため、学校教育による利用がゼロになった。

【派遣・随行・寄稿依頼】

25.5.1 飛騨市企画展「縄文の魅力」展示指導依頼

25.10.19～10.20 日本考古学協会長野大会派遣発表依頼

25.11.30 岐阜市歴史博物館による湯ヶ峰の下呂石の産出状況随行

26.1.26 飛騨考古学会総会講演依頼

26.2.23 美濃加茂市民ミュージアムフォーラム「文化遺産と市民ーその関わり合いを考えるー」寄稿依頼、事例報告「地域の文化財を守る活動」

【特別利用申請】

写真撮影7件、収蔵品特別閲覧8件

△ ふるさと歴史記念館は、他県からの利用者もあり、総合的に良い評価を得られているが、今後も更なる内容の充実に務めていただきたい。

◇市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学 ぶ】

① 生涯学習の推進

- ・公民館における生涯学習講座を充実し、市民のニーズに応じた指導者の確保と、市民の誰もが、いつでもどこでも学べる体制づくりを目指した。（講座数 98 講座募集、実施 69 講座）

- △ 参加希望者自身が、講座を中止にならないよう自主的に仲間を集めるよう指導。
- △ 多種多様な講座を提案していただけることを期待。
- △ サークルに発展する講座の充実と地域を学ぶ「古文書を読む」等の講座が増えると良い。
- △ 地域の集会所を含めた公民館活動の組織づくりの検討。

- ・下呂市社会教育関係団体登録制度（使用料半額減免）により、公民館等を主な活動拠点とする団体の把握、及び団体への情報提供・団体同士の連携・仲間づくりを支援し、市民による公民館活動の充実を図った。

（登録団体数 113 団体 前年度対比 7 団体増）

- ・平成 21 年 4 月 1 日に下呂市社会教育委員の会の諮問により「下呂市生涯学習のまちづくり人材バンク登録制度」を施行し、生涯学習に関する知識・経験・技能を有している人材を発掘。その情報の提供により、充実した市民の生涯学習を支援した。（登録件数：105 件、前年度対比 6 件増）
- ・図書館システムにより、市内五つの図書館（室）のネットワーク化、蔵書のデータ化など管理運営を向上させるとともに、市民にさらに親しまれる図書館づくりの充実を図った。平成 25 年度には本システムを更新し、サーバー群を仮想化し経費削減を図った。絵本の読み聞かせや、折り紙教室なども積極的に行い、利用促進を図った。図書購入費（備品購入費）は年間 600 万円を確保し資料の充実に努めた。

蔵書冊数： 95,538 冊（前年度 90,621 冊） ※電算登録分、雑誌・視聴覚資料は含まない

登録率： 20.18%（前年度 18.32%）※市内登録者÷人口

貸出点数： 104,660 点（前年 101,733 点）※雑誌・視聴覚資料・団体貸出を含む

- △ 先進地を参考に、啓発や運営の方法を学び利用者の拡大を図る。

② 人権教育の推進

- ・学校、行政諸機関、各種団体等との連携により、人権教育や人権啓発のために作成されたポスターの掲示や機関誌の購入、研修会の案内をした。また、生涯学習講座の中に人権に係る内容（障がい者との関わり講座や手話講座）を取り入れ、啓発活動を推進した。

③ 市民の生涯学習の拠点となる施設の管理運営

- ・博物館、図書館等を除いて、社会教育課が所管する社会教育施設の利用状況は次のとおりである。
- ・市民の生涯学習の拠点施設となるべく、適切な管理運営を行った。

（社会教育施設の利用状況）

施設名称	延利用者数（対前年比）
星雲会館（萩原中央公民館）	58,514 人 （163.1%）
下呂市民会館（下呂中央公民館）	25,521 人 （91.9%）
金山市民会館（金山公民館）	17,565 人 （96.1%）
上記以外の公民館（10 館計）	41,920 人 （83.1%）
小坂山村開発センター	5,207 人 （93.2%）
いきいきセンター	1,235 人 （ 91.1%）
位山自然の家	5,552 人 （ 91.3%）
響会館	2,462 人 （134.5%）
市内の所管キャンプ場（山之口、中川原）	2,222 人 （90.4%）

◇だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】

(1) 生涯スポーツ社会の実現に向けた地域スポーツの振興

① スポーツ行政の見直しと市民の意識改革

- ・主催スポーツ事業の見直しの検討

下呂市総合型地域スポーツクラブ連絡会において地域スポーツ事業委託のあり方を検討、平成 25 年度より各地域ごとに契約していた同委託事業を集約し連絡会と一括契約することによって、経費等さらに精査していくようにした。

- ・里山あるきツーデーウォーキング事業の方向性を明確にする

総合政策課、観光課との合同会議を経て、下呂温泉里山あるき実行委員会を 2 回開催した。市内 5 地域を輪番で巡る大会形式に変更し、市民の健康促進や交流人口の増加、郷土を知るきっかけを創出するウォーキングイベントとして再編することとした。

△ 成人、シニア期の健康寿命の延長をめざした事業の推進。

② 住民自らが行う地域スポーツの振興と総合型地域スポーツクラブの育成・支援

- ・総合型地域スポーツクラブ連絡会の機能強化・地域間の交流と理解を進める

- ・スポーツ推進委員とスポーツクラブ連絡会との連携調整を図り、一層の連携と協力体制を構築する

スポーツ推進委員の正副委員長も出席したスポーツクラブ連絡会を 7 回開催。スポーツクラブのない地域へのクラブ育成や連絡会としての新たな役割・事業の検討がなされ、H25 年度には地域スポーツ事業委託を連絡会が受けて、各地域で実施する試みをする事とした。

- ・地域スポーツ事業委託

総合体育大会をはじめ各地域のスポーツクラブ等がスポーツイベントを実施した。

(2) 競技スポーツの振興と優秀な競技者の育成

① 下呂市体育協会の自立支援

- ・事務局は N P O 法人萩原スポーツクラブが継続

市体育協会の事務を引き続き萩原 SC が体協を運営。事務移管により行政経費の削減、自主的な組織体制・運営の強化を図った。

② 優秀な選手・団体に対する表彰や激励金の交付

全国大会出場選手等激励会 7 回 激励金交付総額 90,000 円

市長や体育協会長から激励を受けることにより、選手の士気向上に寄与した。

③ 見るスポーツ・支援するスポーツによる啓発

- ・ひだ金山清流マラソン大会開催事業

清流マラソン参加者 674 (エントリー数) 名 市のマラソン大会として認知されており、多くの参加を得た。

(3) スポーツ施設の充実と活用促進

① 社会体育施設等の充実

- ・旧湯屋小学校屋内運動場及びグラウンドを社会体育施設に用途を変更し利用を継続

湯屋体育館 利用者数 76 件 656 人 湯屋グラウンド 利用者数 21 件 502 人

湯屋地区におけるスポーツ交流の拠点として十分な機能を果たしているものの、今後の運営方法については校舎もあわせて再度検討が必要である。

- ・御嶽パノラマグラウンドの指定管理者制度による一体的な管理

御嶽パノラマグラウンド 利用者数 118 件 4,829 人 (前年対比△4.7%)

濁河温泉高原スポーツレクリエーションセンターとの一体的な指定管理により、トレーニング施設として定着している。

(4) 下呂市スポーツ振興計画の評価と推進体制整備の検討

- ①計画の評価と再検討 ②推進体制の整備 (下呂市スポーツ推進審議会を 2 回開催)

(資料1 下呂ふるさと歴史記念館利用アンケート)

下呂ふるさと歴史記念館 アンケート調査

アンケート期間/平成25年8月1日～9月30日

【常設展示】

居住域	アンケート数	点数細別	評価項目(5段階評価)				
			展示資料 の量の適 正さ	展示資料の 充実度	説明文の量 の適正さ	説明文の内 容の充実度	歴史教育材 料有効性
下呂市	9	総点数	36	36	33	35	36
		平均値	4	4	3.7	3.9	4
高山市	6	総点数	18	19	22	22	22
		平均値	3	3.2	3.7	3.7	3.7
岐阜県内	17	総点数	63	67	65	63	64
		平均値	3.7	3.9	3.8	3.7	3.8
愛知県内	17	総点数	65	66	65	66	66
		平均値	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9
関東地方	10	総点数	42	35	42	41	43
		平均値	4.2	3.5	4.2	4.1	4.3
関西地方	9	総点数	27	26	28	30	25
		平均値	3.4	3.3	3.5	3.8	3.8
三重県内	1	総点数	3	5	4	4	4
		平均値	3	5	4	4	4
富山県内	1	総点数	2	3	3	3	2
		平均値	2	3	3	3	2
その他	0	総点数	0	0	0	0	0
		平均値	0	0	0	0	0
全 体	70	総点数	256	257	262	264	262
		平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7

【体験学習】

居住域	アンケート数	点数細別	評価項目(5段階評価)					
			受付時間帯の適正さ	体験内容の充実度	体験時間の適正さ	体験担当員の解説	歴史に興味を持つ契機度	体験の歴史教育材料効果
下呂市	14	総点数	68	70	69	69	67	61
		平均値	4.9	5	4.9	4.9	4.8	4.7
高山市	7	総点数	30	32	33	32	24	－
		平均値	4.3	4.6	4.7	4.6	4	－
岐阜県内	20	総点数	85	90	92	91	70	77
		平均値	4.3	4.5	4.6	4.6	4.4	4
愛知県内	23	総点数	103	108	105	108	80	72
		平均値	4.5	4.7	4.6	4.7	4.2	4.5
関東地方	10	総点数	47	49	50	49	39	25
		平均値	4.7	4.9	5	4.9	4.3	4.2
関西地方	9	総点数	42	44	44	45	37	28
		平均値	4.7	4.9	4.4	5	4.6	4.7
三重県内	1	総点数	3	5	5	5	4	－
		平均値	3	5	5	5	4	－
富山県内	1	総点数	4	5	5	5	3	－
		平均値	4	5	5	5	3	－
その他	1	総点数	5	5	5	5	4	5
		平均値	5	5	5	5	4	5
全 体	86	総点数	387	408	408	409	328	268
		平均値	4.5	4.7	4.7	4.8	4.4	4.4

(本項目 75 名回答) (本項目 61 名回答)

【体験参加のお子様】

	未就 園児	園児	低学年	高学年	中学生	高校生	アンケ ート数	点数細別	評価項目 (5段階評価)	
									体験中の 様子	体験の歴 史教育材 料
下呂市	0	1	8	6	1	1	17	総点数	64	61
								平均値	4.9	4.7
岐阜県内	0	6	8	10	2	0	26	総点数	85	77
								平均値	4.5	4
愛知県内	0	4	13	3	2	0	22	総点数	77	72
								平均値	4.8	4.5
三重県内	0	0	0	0	0	0	0	総点数		
								平均値		
関東地方	0	1	3	5	1	0	10	総点数	28	25
								平均値	4.7	4.2
関西地方	0	0	5	2	1	1	9	総点数	30	28
								平均値	5	4.7
その他	0	0	1	0	1	0	2	総点数	4	5
								平均値	4	5
全体	0	12	38	26	8	2	86	総点数	288	268
								平均値	4.7	4.4